

奉祝秋篠宮悠仁親王殿下成年式

# 天王祭

令和八年

平安時代・延暦十四年創建

## 素盞雄神社

東京都荒川区南千住6-60-1

電話 03 (3891) 8281

<https://www.susanoo.or.jp>



7日 10時45分引継ぎ  
荒川6丁目ひろば館

6日 18時奉遷  
7日 8時発輿  
原稲荷御旅所

6日 14時45分引継ぎ  
町屋駅前

6日 13時55分  
荒川六丁目

アクロスあらかわ  
7日 昼御鎮祭  
12時30分

荒川区役所  
荒川消防署

荒川警察署

NTT荒川  
6日 10時45分引継ぎ

6日 7時宮出し  
7日 19時宮入り  
素盞雄神社

南千住警察署

小塚原通り

宮入り道中

大関横丁  
7日 15時引継ぎ

三ノ輪

日本堤二丁目

**渡御日程**

六月六日(土) 御本社宮出し 午前七時  
原稲荷御旅所奉遷 午後六時

七日(日) 原稲荷御旅所発輿 午前八時  
御本社宮入り道中 午後五時

**奉祝行事**

三河島山車人形 稲田姫  
素盞雄神社天王太鼓会



# 天王祭



## 大祭日程

五月下旬	御旅所清祓式齋行(原稲荷) 稲田姫飾付け(神楽殿)
六月二日(火)	午後六時三十分 育宮齋齋行
三日(水)	午前十時三十分 例大祭齋行 本社責任常任・三地区正副委員長 総代・祭禮委員・来賓招待者参列
四日(木)	午後六時 御本社神輿御神靈移し齋行 本社責任常任・三地区委員長 三地区猿田彦命・九番組参列
五日(金)	午前六時三十分 御本社発輿齋齋行 本社責任常任・三地区正副委員長 町屋地区猿田彦命・九番組参列 氏子全町高張提灯 西島居前集合
六日(土)	午前七時 《町屋方宮出し》 西島居前《南千住三之輪方引継ぎ》 小塚原通り・千住間道神輿振り 千住間道NTT荒川前《三河島方引継ぎ》 千住間道・尾竹橋通り神輿振り 午後二時四十五分 都電町屋駅前《町屋方引継ぎ》 尾竹橋通り神輿振り 午後六時 御旅所奉遷(原稲荷)
七日(日)	午前七時三十分 御旅所発輿齋齋行 本社責任・町屋地区正副委員長・総代 町屋地区猿田彦命・九番組参列 午前八時 発輿 町屋地区渡御 午前十時四十五分 荒川六丁目ひろば館前《三河島方引継ぎ》 三河島地区渡御 午後十二時三十分 《昼御饗齋齋行》アクロスあらかわ 本社責任・三河島地区正副委員長・総代 三河島地区猿田彦命・九番組参列 渡御供奉員昼食 午後三時 大関横丁《南千住三之輪方引継ぎ》 三之輪南千住地区渡御 午後五〜七時 《御本社宮入り道中》 氏子全町高張提灯 小塚原通り集合 小塚原通り神輿振り・宮入り
還 御	本社責任常任・三地区正副委員長 総代・祭禮委員・九番組 手締め 解散
帰 納 祭	本社責任常任・三地区正副委員長参列

## 三地区正副祭禮委員長

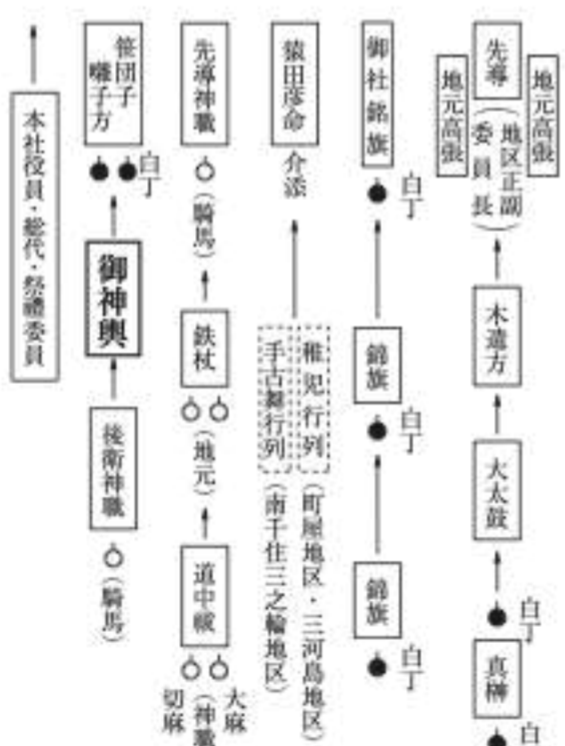
南千住三之輪地区 委員長 柳 健夫 副委員長 青木 健志

三河島地区 委員長 橋本 郁雄 副委員長 齋藤 隆雄

町屋地区 委員長 東風谷 博 副委員長 佐久間 實

猿田彦命奉仕者  
南千住三之輪地区 若林 学 殿  
三河島地区 栗田 博 殿  
町屋地区 木内 康文 殿

## 御神輿渡御行装



## 宮迎え



六月は旧暦で夏。天王祭は、人や物の行き来が盛んな街道の夏に流行する疫病を、激しい神輿振りにより、御祭神の神威をより一層振り起こして祓う悪疫退散、除災招福・郷土繁栄を願う祭禮です。  
三年に一度の御神幸祭では、御本社神輿が南千住・三之輪・三河島、町屋の六十一ヶ町にわたる氏子区域を渡御します。大・中・小、三基そろった宮神輿二天の神輿振りから、家族・仲間・郷土の地域共同体意識の構築を目指します。

《御本社大神輿》  
現在の神輿は、明治十年、十三代浅子周慶による作。重量千貫の神輿を、四間半(8.1m)の長柄二本(二天棒)で左右に振る「神輿振り」は大変勇壮です。  
この荒々しい神輿振りにより損傷が激しく、昭和六十三年昭和天皇米寿の佳き歳に大修繕を行いました。千葉県行徳の浅子神輿店を出発した大神輿は、十数艘の船渡御により東京湾を経て隅田川を上り、古式ゆかしく宮納めしました。

《風車》  
大正十四年調製の風車は、先の戦災による損傷が激しく、平成二年、天皇陛下御即位御大典(当時)を奉祝し、日光社寺文化財保存会に修繕を依頼しました。日光東照宮等を手掛ける名匠名工により見事に修繕完成し、日光東照宮御神前において神輿振りを奉納いたしました。

《御本社中神輿》  
大神輿は、氏子区域の若齢選抜によってのみ担がれます。伝統を護り次代に引き継ぐことを祈念し、女性や年少の者も担ぐことができるようにと、平成七年、皇太子殿下御成婚(当時)を奉祝し調製しました。  
《御本社子供神輿》  
幼少時からの体験を通じた伝統の継続・後継の育成を目的し、秋篠宮悠仁親王殿下御誕生を奉祝し、平成二十年に調製しました。

そして悠仁様の成年式 御神輿も十八年この間に担いだ多くのお子さんたち  
歳を重ねて  
今では中神輿・大神輿の担ぎ手へと成長  
御理解と御力をいただいた御家族の皆様  
指導・運営に御尽力をいただいた地域の皆様  
この土地が育んで来た有形無形の力  
継続の地域力に感謝申し上げます

